



城

第七十六回

肥後田中城

— 難治の国、肥後の国衆一揆 —

深草 祐一

今回とりあげるのは、熊本県北部にある国指定史跡の田中城（和仁城）です。1989年に「毛利家文書」からこの田中城攻城戦の様子を描いた「辺春和仁仕寄陣取図」が発見され、図示された城の構造と、以前からの発掘調査結果とがよく合致することから、戦国史を知る上で貴重な遺構であるとして2002年に国の史跡に指定された城跡です。ここに図示された戦は、豊臣秀吉による九州征伐後、難治の国と言われた肥後で起こった国衆一揆において、最後まで抵抗した和仁氏による籠城戦でした。

豊臣秀吉の九州征伐

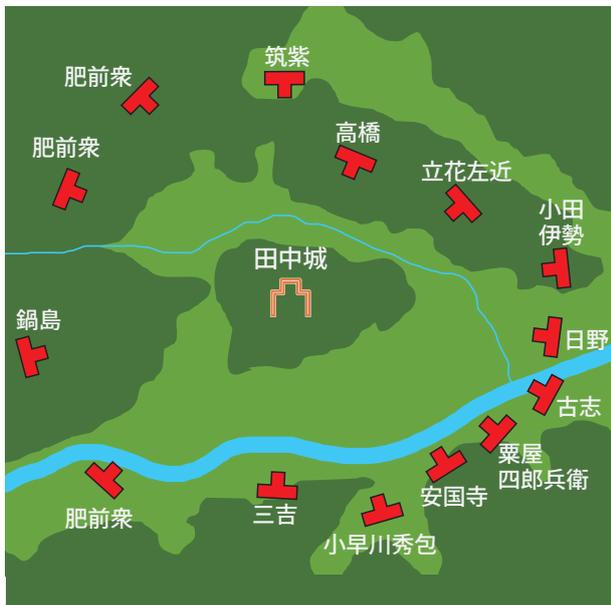
戦国末期の九州では、薩摩の島津氏、豊後の大友氏、肥前の龍造寺氏がそれぞれ勢力を拡大し、九州三国時代とも言える状況となっていました。九州中央部の肥後国では、守護大名の菊池氏が衰退し、比較的小規模の国人領主が割拠していましたが、上述の三氏の勢力が伸びてくると、それぞれいずれかの勢力に与して生き残りを図ろうとしていました。やがて、島津氏が龍造寺氏の当主隆信を討ち取り（沖田畷の戦い）、大友氏の遠征軍を大敗させます（高城川の戦い）。そして、九州は島津氏の勢力に染められていき、肥後の国衆も南から次第に島津氏に降っていきました。退勢に追い込まれた大友氏は、関白豊臣秀吉に九州の状況を訴え、救援を求めます。秀吉は朝廷の権威の下に停戦を命じましたが、島津氏は、先に仕掛けたのは大友方であるとして、九州全土へと兵を進めました。そこで秀吉は配下の大名に動員をかけ、大兵力をもって九州に攻め入り、島津氏を屈服させたのでした。島津氏は薩摩・大隅に押し込められ、肥後は秀吉の指示により、佐々成政が治めることとなって、秀吉の朱印状で所領を安堵された52の肥後の国人はその配下とされました。

佐々成政の隈本入りと国衆の蜂起

佐々成政は、織田家の北陸方面司令官であった柴田勝家の配下として越中を治めていた武将で、本能寺の変後の織田家の跡目争いの際には、羽柴秀吉の陣営と激しく対立していました。賤が岳の戦いで柴田勝家が滅ぼされた後も抵抗を続けましたが、結局降伏して秀吉の配下に降ったという経緯があります。九州征伐の後、秀吉は、守護大名不在で難治の国と言われた肥後を、武勇に優れ越中経営の実績もある、この佐々成政に任せたのでした。しかし、わずか1ヶ月余りで国人が挙兵する事態となります。佐々成政が検地を性急に実行しようとしたためであると言われています。国人にとっては、検地によって農地、取れ高、その耕作農民が特定されると、秀吉の朱印状のとおり知行を安堵されるように見えても、旧来の領地支配による中間利益が全て新領主の佐々成政に召し上げられるに等しい状況になります。肥後入りしたばかりの新国主からの一方的な検地の通達に、関白殿下との約束と違うと、国人たちは強く反発。そして、菊池の有力国人の隈部氏が隈府城に兵を集め立て籠もりました。佐々成政は、直ちに兵7千を率いて隈本城（後の熊本城）を進発し、隈府城を落としましたが、隈部氏は要害堅固な城村城に逃れて抵抗を続け、他の国衆に呼びかけたため、肥後北部一円にわたる大規模な一揆に発展しました。そして、和仁氏、菊池氏らの軍勢が逆に佐々成政の隈本城を包囲する事態に至ります。苦境に立たされた佐々成政は秀吉に援軍を要請。秀吉の命を受けて鍋島直茂、安国寺恵瓊、立花宗茂、高橋直次ら北部九州の諸将が出兵しました。救援軍は、当初は手痛い反撃を受けたものの、一揆方の伏兵を見破った立花、高橋勢の活躍もあって、一揆勢を切り崩していきました。

田中城の攻城戦

肥後の平定を急いだ秀吉は、さらに、小早川秀包を総大将として、筑紫広門、福島正則、蜂須賀家政、生駒親正、戸田勝隆といった九州・四国の大名を動員しました。この頃には既に、九州を兵站基地として朝鮮から明国への出兵を構想していたためとも言われます。そして、関白の鎮圧軍は、頑強な抵抗を続ける和仁親実の田中城を、1万を超える大軍で包囲しました。田中城は、川と山に挟まれた水田の中に浮かぶような小山に築かれた城です。水田面から40m以上の高さに平坦な主郭があり、周囲に空堀、出丸や捨て曲輪を配置した実戦的な縄張り、城内には井戸もありました。泥湿地に囲まれた城というのは、現代の私たちが思う以上に堅固な城です。他にも、備中高松城(第22回)、武蔵忍城(第30回)、加賀小松城(第52回)といった同様の要害を利用した城は、大軍による力攻めでは落ちていません。ここに籠もった和仁親実は、弟の和仁親範、親宗、そして娘婿の辺春親行と共に、わずか千人足らずの兵で10倍以上の鎮圧軍の攻撃を1ヶ月以上防ぎ続けました。力攻めが難しいと考えた鎮圧軍は、安国寺恵瓊による内応工作を進めます。そして、勧誘に応じた辺春親行が勇である城主の和仁親実を暗殺し内側から鎮圧軍を招き入れたことで、籠城38日にして田中城は落城しました。こうして、手強かった田中城が落ちてしまうと、やがて隈部氏の籠もる城村城も開城し、肥後国衆一揆は鎮圧されたのでした。



辺春和仁仕寄陣取図から想定される攻囲の様子

戦後の経緯と肥後国衆一揆の影響

一揆の鎮圧後、佐々成政は謝罪のため大坂に上りますが、秀吉から面会を拒否され、尼崎に幽閉された後、切腹させられました。この時に、佐々成政の非道を越中時代にまで遡って糾弾した朱印状が小早川家文書に残っており、秀吉の軍門に降ったとはいえ、佐々成政の扱いには難しい問題があったのかも知れません。一方、肥後国衆に対しては、一揆に参加せず中立の立場を取った者も、処罰を受けたり他国へ移されたりしました。そして、佐々成政の後には、肥後北部に加藤清正、肥後南部に小西行長が配置されました。加藤清正が隈本城を大改修して熊本城を築城するのは、その後のことです。なお、肥後国衆一揆には、武士と共に百姓が多く参加しており、隈部氏の城村城には男女合わせて1万8千人以上が武器を手に籠城していたといえます。この教訓を得て、急ぎ全国的に刀狩りが実行されることになったようです。

現在の田中城

田中城が国の史跡に指定されたことは先に書いたとおりですが、その年に、地元の三加和町(現在は和水町)で、田中城の攻城戦を和仁親実の娘の視点から描いた映画「おんな国衆一揆」が製作されています。田中城近くの小学校跡地にある「田中城ミニミュージアム」で視聴することができたのですが、地域振興のしょぼい映画かと思いきや、なんとメガホンは三池崇史監督であり、和仁親実役に原田芳雄さん、佐々成政役に石橋蓮司さん、裏切る辺春親行役に北村一輝さんといった、超豪華キャスト陣による本格的な映画でした。豊臣秀吉役で竹中直人さん、北政所役で当時の熊本県知事も一瞬出演されています(^_^)。もし機会があれば観てみていただきたい。



水田の向こうにそびえる田中城の断崖